

スポーツコミッションの役割に関する一考察 — 盛岡広域圏を対象にした意識調査より —

浅 沼 道 成

はじめに

わが国では、2011年6月に観光庁が「スポーツツーリズム推進基本方針」をまとめ、その方針の中でスポーツツーリズムとは、「スポーツを「観る」「する」ための旅行そのものや周辺地域観光に加え、スポーツを「支える」人々との交流、あるいは生涯スポーツの観点からビジネスなどの多目的での旅行者に対し、旅行先の地域でも主体的にスポーツに親しむことのできる環境の整備、そしてMICE¹⁾ 推進の要となる国際競技大会の招致・開催、合宿の招致も包含した、複合的でこれまでにない「豊かな旅行スタイルの創造」を目指すものである²⁾」と述べられている。この方針に基づき、スポーツツーリズムを推進するために、全国的にスポーツコミッションという組織が設立されてきている。スポーツコミッションとは、山下、原田(2015)は「スポーツ競技団体やスポーツイベントのライセンスホルダー(興行団体)と、都市(自治体)をつなぐ「インターフェース」の役割をはたし、スポーツイベントがもたらすさまざまな果実(消費誘導効果、都市の知名度アップ、地域連帯感の向上、社会資本の蓄積など)を最大化することを目的」とする組織と定義し、スポーツ庁は地域スポーツコミッションへの活動支援事業(2017)の中で「地方自治体、スポーツ団体、民間企業(観光産業、スポーツ産業)等が一体となり、スポーツツーリズム、イベント開催、大会や合宿の誘致などによる地域活性化に取り組む組織」と定義し、以下の要件をあげている。

〈要件1〉：常設の組織であり、年間を通じて活動を行っている。(時限の組織を除く)

〈要件2〉：スポーツツーリズムの推進、イベントの開催、大会や合宿・キャンプの誘致など、スポーツと地域資源を掛け合せたまちづくり・地域活性化を主要な活動の一つとしている。

〈要件3〉：地方自治体、スポーツ団体、民間企業(観光産業、スポーツ産業)等が一体となり組織を形成、または協働して活動を行っている。

〈要件4〉：特定の大会・イベントの開催及びその付帯事業に特化せず、スポーツによる地域活性化に向けた幅広い活動を行っている。

2017年9月現在のスポーツ庁調べでは、全国で83のスポーツコミッションの組織が立ち上が

1) MICEとは、Meeting, Incentive travel, Convention, Exhibition/Eventの頭文字をとった集客が見込まれるビジネスイベントの総称

2) 「観光庁のスポーツツーリズム推進基本方針(2011)のp.2より引用

り活動をしている。岩手県では、はなまきスポーツコンベンションビューロー（2011年3月設立）、スポーツリンク北上（2017年3月設立）と盛岡広域スポーツコミッション（2017年3月設立）の3つのスポーツコミッションが設立されている。

本研究では、2017年9月から10月に盛岡広域スポーツコミッションが策定した第一次盛岡広域スポーツツーリズム推進計画³⁾を進めるに当たり、住民意識の把握とともに、要望や意見を反映させるために盛岡広域圏の住民を対象に実施された「盛岡広域連携スポーツツーリズム推進に係るアンケート調査」の結果から、今後の事例としてスポーツコミッションが推進されていく方向性と役割について検討することが目的である。

研究方法

本研究では、基礎的資料を収集するために盛岡広域スポーツコミッションとこのコミッションのメンバーである岩手大学スポーツユニオンが連携し、盛岡広域圏の住民を対象とした「盛岡広域連携スポーツツーリズム推進に係るアンケート調査」を実施した。このアンケート調査の結果をデータとして考察し、スポーツコミッションの今後の期待される役割について提言する。

1. 調査内容

- ①個人的属性：性別，年齢，居住地
- ②1年間にスポーツや健康を意識した運動の状況：実施した運動の内容，実施なかった理由，夏季と冬季における実施回数
- ③スポーツに対する考え方：スポーツのかわり方の選好，スポーツに対する重視点
- ④スポーツ施設について：新たな建設施設，大規模改修の必要なスポーツ施設，施設利用の重視点
- ⑤スポーツイベントについて：希望郷いわて国体・いわて大会への参加状況，ボランティア活動への参加，地元プロスポーツチームへの期待，東京オリンピック・パラリンピック大会への期待，大会へのかかわり方
- ⑥スポーツを通じた地域の活性化への取組み：地域活性化を進めるために必要なこと

表1-1 層化抽出した配布数

	人口 (H27国調)		均等割	人口割	配布数合計
盛岡市	297,631	62.43%	70	1,523	1,593
八幡平市	26,355	5.53%	70	135	205
滝沢市	55,463	11.63%	70	284	354
雫石町	16,981	3.56%	70	87	157
葛巻町	6,344	1.33%	70	32	102
岩手町	13,692	2.87%	70	70	140
紫波町	32,614	6.84%	70	167	237
矢巾町	27,678	5.81%	70	142	212
小計	476,758	100.00%	560	2,440	3,000

2. 調査対象者

- ①母集団：盛岡広域8市町の住民の20歳以上
- ②標本数：3,000人

3)「スポーツの力が盛岡広域圏の未来を創る」をスローガンに、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の遺産を確実に未来に引き継いでいく責任があり、盛岡広域8市町がそれぞれの自立性を尊重しつつ、相互に連携・協調してスポーツツーリズム等の取組を通じた盛岡広域圏の魅力の発信と賑わいの創出を図るという基本方針

③抽出法：層化抽出

3. 調査期間

平成29年9月29日～10月20日

4. 調査方法

住民基本台帳から無作為で抽出された満20歳以上の市民・町民に対し、郵送で配布（無記名式の質問紙調査）

5. 回収結果

有効回答数 1,168人 有効回収率 38.9%

表2 回収率

配布先	配布数	有効回収数	有効回収率
全地域	3000	1168	38.9%
盛岡市	1593	675	42.4%
八幡平市	205	70	34.2%
滝沢市	354	128	36.2%
雫石町	157	52	33.1%
葛巻町	102	46	44.9%
岩手町	140	22	15.7%
紫波町	237	85	35.9%
矢巾町	212	90	42.5%

結果および考察

1. 個人的属性

①回答者のプロフィール（性別・年齢・居住地）

有効回答者は、1,168名で、男性530名（45.4%）、女性638名（54.6%）であった。また、年齢では50代が21.4%、60代が24.7%とこの年齢で全体の46.1%を占めていた（表1-1、表1-2）。

表1-1 回答者のプロフィール 性別と年齢

		年齢						合計
		20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	
性別	男性	31 5.8%	54 10.2%	109 20.6%	106 20.0%	132 24.9%	98 18.5%	530 100.0%
	女性	43 6.7%	79 12.4%	109 17.1%	144 22.6%	157 24.6%	106 16.6%	638 100.0%
合計		74 6.3%	133 11.4%	218 18.7%	250 21.4%	289 24.7%	204 17.5%	1168 100.0%

表1-2 回答者のプロフィール 居住地と年齢

居住地		年齢						合計
		20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	
盛岡市		43	81	126	163	146	116	675
		6.4%	12.0%	18.7%	24.1%	21.6%	17.2%	100.0%
八幡平市		3	4	10	7	28	18	70
		4.3%	5.7%	14.3%	10.0%	40.0%	25.7%	100.0%
滝沢市		9	17	29	20	32	21	128
		7.0%	13.3%	22.7%	15.6%	25.0%	16.4%	100.0%
雫石町		3	1	8	16	17	7	52
		5.8%	1.9%	15.4%	30.8%	32.7%	13.5%	100.0%
岩手町		2	6	7	10	7	14	46
		4.3%	13.0%	15.2%	21.7%	15.2%	30.4%	100.0%
葛巻町		0	4	3	0	8	7	22
		.0%	18.2%	13.6%	.0%	36.4%	31.8%	100.0%
紫波町		7	8	18	10	29	13	85
		8.2%	9.4%	21.2%	11.8%	34.1%	15.3%	100.0%
矢巾町		7	12	17	24	22	8	90
		7.8%	13.3%	18.9%	26.7%	24.4%	8.9%	100.0%
合計		74 6.3%	133 11.4%	218 18.7%	250 21.4%	289 24.7%	204 17.5%	1168 100.0%

2. スポーツや健康を意識した運動・スポーツの状況

①この1年間に実施した運動の内容

1年間のスポーツや健康を意識した運動は、6つの実施状況（「その他」と「スポーツ・運動を行わなかった」を含む）に対して複数回答された結果である。「スポーツ（ウォーキング、ジョギング、筋力トレーニング等なんでも）」を行ったと回答した人は全体の41.5%であり、女性よりも男性に多い傾向がみられた（表2-1、表2-2）。

表2-1 スポーツや健康を意識した運動の実施状況 性別 複数回答

		スポーツや健康を意識した運動の実施					スポーツ・運動を行っていない	合計
		スポーツ（ウォーキング、ジョギング、筋力トレーニング等なんでも）	散歩（ぶらぶら歩き・犬の散歩）	ラジオ体操などの軽体操	徒歩・自転車での通勤・通学	その他		
性別	男性	240 45.4%	181 34.2%	84 15.9%	70 13.2%	16 3.0%	149 28.2%	529
	女性	244 38.3%	224 35.2%	142 22.3%	116 18.2%	15 2.4%	206 32.3%	
合計		484 41.5%	405 34.7%	226 19.4%	186 16.0%	31 2.7%	355 30.4%	1166

また、表2-1、表2-2に表れてこないが、「スポーツ・運動を行っていない」に回答せず、「散歩」や「ラジオ体操などの軽体操」「徒歩・自転車での通勤通学」に回答した人の中で、31名が表4-1の「スポー

ツ・運動を行っていない」理由に回答をしていた。調査計画の想定では「スポーツ・運動を行っていない」と回答した人のみが回答すべき項目と考えていた。さらに、スポーツや健康を意識した運動の実施状況の「スポーツ・運動を行っていない」に回答している人の中にも、「スポーツ

表2-2 スポーツや健康を意識した運動の実施状況 年齢 複数回答

		スポーツや健康を意識した運動の実施					スポーツ・運動を行っていない	合計
		スポーツ（ウォーキング、ジョギング、筋力トレーニング等なんでも）	散歩（ぶらぶら歩き・犬の散歩）	ラジオ体操などの軽体操	徒歩・自転車での通勤・通学	その他		
年齢	20代	35 47.3%	24 32.4%	10 13.5%	26 35.1%	2 2.7%	18 24.3%	74
	30代	57 43.2%	54 40.9%	15 11.4%	24 18.2%	5 3.8%	32 24.2%	
	40代	92 42.4%	65 30.0%	34 15.7%	47 21.7%	4 1.8%	75 34.6%	
	50代	90 36.0%	81 32.4%	36 14.4%	40 16.0%	3 1.2%	87 34.8%	
	60代	128 44.3%	103 35.6%	62 21.5%	32 11.1%	6 2.1%	92 31.8%	
	70代以上	82 40.2%	78 38.2%	69 33.8%	17 8.3%	11 5.4%	51 25.0%	
	合計	484 41.5%	405 34.7%	226 19.4%	186 16.0%	31 2.7%	355 30.4%	

（ウォーキング、ジョギング、筋力トレーニング等何でも）」以外の項目を選択している人も少数存在していた。このことは、調査票の問題⁴⁾もあるが、スポーツや運動という用語が、人によって解釈が大きく異なることが捉えられたと考えられる。

よって、調査目的による対象の「スポーツ」や「運動」という用語の定義を明確に示し、その上でスポーツ政策を検討していかなければならないことが重要である。

②実施しなかった理由

スポーツや健康を意識した運動を実施してこなかった理由では、「時間がない」が53.7%であり、年齢が高くなるにつれて「健康・体力に自信がない」が増えている。この結果は多くの

4) 調査票の整理段階で、「その他」の項目に自由記述としてヨガ、グランドゴルフ、カーリング、登山など「スポーツ」の項目に回答すべき内容が多数みられ、スポーツ項目へ修正をした。

表2-3 スポーツや健康を意識した運動を実施しない理由 性別

		理由					合計	
		時間がない	健康・体力に自信がない	他にやりたいことがある	スポーツ・運動が苦手	必要を感じない		その他
性別	男性	94 52.2%	19 10.6%	16 8.9%	11 6.1%	19 10.6%	21 11.7%	180 100.0%
	女性	132 54.8%	34 14.1%	15 6.2%	32 13.3%	8 3.3%	20 8.3%	241 100.0%
合計		226 53.7%	53 12.6%	31 7.4%	43 10.2%	27 6.4%	41 9.7%	421 100.0%

P<0.01

表2-4 スポーツや健康を意識した運動を実施しない理由 年齢

		理由					合計	
		時間がない	健康・体力に自信がない	他にやりたいことがある	スポーツ・運動が苦手	必要を感じない		その他
年齢	20代	15 68.2%	0 .0%	3 13.6%	2 9.1%	2 9.1%	0 .0%	22 100.0%
	30代	26 72.2%	0 .0%	2 5.6%	2 5.6%	2 5.6%	4 11.1%	36 100.0%
	40代	52 61.2%	5 5.9%	6 7.1%	10 11.8%	5 5.9%	7 8.2%	85 100.0%
	50代	63 63.0%	10 10.0%	9 9.0%	8 8.0%	3 3.0%	7 7.0%	100 100.0%
	60代	51 48.1%	14 13.2%	7 6.6%	12 11.3%	13 12.3%	9 8.5%	106 100.0%
	70代以上	19 26.4%	24 33.3%	4 5.6%	9 12.5%	2 2.8%	14 19.4%	72 100.0%
	合計		226 53.7%	53 12.6%	31 7.4%	43 10.2%	27 6.4%	41 9.7%

P<0.01

28.8%と実施者の4分の1以上であった。また、70歳以上の人が50.4%と半数を超え、「70歳以上」以外の年齢では週1～2回程度が多い傾向にあった。すなわち、スポーツや健康を意識して運動を行っている人たちは、定期的にスポーツや運動を実施していることがわかる。この傾向は、この調査の中で「健康」が主な目的で行動しているかはわからないが、スポーツや運動に対して何らかの高い意識を持って行動をとっていることが伺えた。

次に、全体からこのスポーツと健康を意識した運動の実施回数を検討してみると、「実施しなかった理由」に回答した人が421名（表2-3の合計）であり、夏季で実施回数に回答した人が723名（表2-5の合計）で、合わせて1,144名を全体として、週5日以上が18.2%（208/1144）、週3～4回程度が15.7%（176/1123）、週1～2回程度が21.2%（242/1144）と合計で54.8%となり、5割以上

調査⁵⁾でも示されてきており、実際の「時間がない」という理由やその背景など詳細に検討する必要がある。また、「健康、体力に自信がない」の項目では、年齢が高くなるほど実施しなかった理由として上がっていた（表2-3、表2-4）。また男性よりも女性に「スポーツ・運動が苦手」が高い傾向にあり、性別による理由の違いがみられた。

③夏季と冬季における実施回数
スポーツや健康を意識した運動の実施者に、夏季（4月～10月）と冬季（11月～3月）の期間における実施回数を聞いた。表2-5、表2-7より夏季に週5回以上実施している人が

表2-5 スポーツと健康を意識した運動の実施回数 性別 夏季

		夏季回数					合計
		週5回以上（ほぼ毎日）	週3～4回程度	週1～2回程度	月1～2回程度	その他	
性別	男性	103 30.2%	75 22.0%	110 32.3%	50 14.7%	3 .9%	341 100.0%
	女性	105 16.5%	101 15.8%	132 20.7%	34 5.3%	10 1.6%	382 100.0%
合計		208 28.8%	176 24.3%	242 33.5%	84 11.6%	13 1.8%	723 100.0%

表2-6 スポーツと健康を意識した運動の実施回数 性別 冬季

		冬季回数					合計
		週5回以上（ほぼ毎日）	週3～4回程度	週1～2回程度	月1～2回程度	その他	
性別	男性	75 22.3%	74 22.0%	99 29.4%	81 24.0%	8 2.4%	337 100.0%
	女性	79 20.7%	84 22.0%	134 35.1%	62 16.2%	23 6.0%	382 100.0%
合計		154 21.4%	158 22.0%	233 32.4%	143 19.9%	31 4.3%	719 100.0%

5) 文部科学省が実施している「体力・スポーツに関する世論調査」で毎回この項目が使われている。

表2-7 スポーツと健康を意識した運動の実施回数 年齢 夏季

	年齢	夏季回数					合計
		週5回以上 (ほぼ毎日)	週3~4 回程度	週1~2 回程度	月1~2 回程度	その他	
	20代	14 26.9%	6 11.5%	25 48.1%	5 9.6%	2 3.8%	52 100.0%
	30代	13 13.8%	24 25.5%	35 37.2%	20 21.3%	2 2.1%	94 100.0%
	40代	25 19.1%	33 25.2%	53 40.5%	18 13.7%	2 1.5%	131 100.0%
	50代	46 31.5%	27 18.5%	55 37.7%	16 11.0%	2 1.4%	146 100.0%
	60代	48 27.1%	53 29.9%	55 31.1%	17 9.6%	4 2.3%	177 100.0%
	70代以上	62 50.4%	33 26.8%	19 15.4%	8 6.5%	1 .8%	123 100.0%
合計		208 28.8%	176 24.3%	242 33.5%	84 11.6%	13 1.8%	723 100.0%

表2-8 スポーツと健康を意識した運動の実施回数 年齢 冬季

	年齢	冬季回数					合計
		週5回以上 (ほぼ毎日)	週3~4 回程度	週1~2 回程度	月1~2 回程度	その他	
	20代	11 21.6%	8 15.7%	15 29.4%	13 25.5%	4 7.8%	51 100.0%
	30代	13 13.8%	15 16.0%	32 34.0%	31 33.0%	3 3.2%	94 100.0%
	40代	20 15.5%	25 19.4%	46 35.7%	32 24.8%	6 4.7%	129 100.0%
	50代	34 23.3%	26 17.8%	49 33.6%	28 19.2%	9 6.2%	146 100.0%
	60代	32 18.3%	48 27.4%	65 37.1%	25 14.3%	5 2.9%	175 100.0%
	70代以上	44 35.5%	36 29.0%	26 21.0%	14 11.3%	4 3.2%	124 100.0%
合計		154 21.4%	158 22.0%	233 32.4%	143 19.9%	31 4.3%	719 100.0%

3. スポーツに対する考え方

①スポーツのかかわり方の選好

ここではスポーツにかかわる時にどのようなかかわり方を好んでいるか回答を得た結果である。スポーツをすることと観ることは以下のように定義して回答を得た。

- ・「する」：自分自身がスポーツを行うこと
- ・「観る」：会場またはテレビ等でスポーツを観戦すること（応援を含む）

表3-1、表3-2から「スポーツは好きではない」や「わからない」が合わせて7.5%で

表3-1 「する」「見る」スポーツの選好 性別

	性別	選好					合計
		「する」・ 「観る」両 方も好き	どちらかとい えば「する」 のが好き	どちらかとい えば「観る」 のが好き	スポーツは 好きではな い	わからない	
	男性	221 42.8%	95 18.4%	175 33.9%	16 3.1%	9 1.7%	516 100.0%
	女性	203 32.7%	112 18.1%	245 39.5%	40 6.5%	20 3.2%	620 100.0%
合計		424 37.3%	207 18.2%	420 37.0%	56 4.9%	29 2.6%	1136 100.0%

P<0.01

の住民がスポーツや運動を定期的に実施していることがわかる。

また、夏季と冬季の実施率の変化は、表2-5と表2-6から夏季-冬季で週5回以上が7.4%、週3~4回程度が2.3%、週1~2回程度が1.1%、そして月1~2回程度がマイナス8.3%（冬季が増えていることを意味する）という変化であった。予測通りに冬季間の回数が減っているが、回数は減っているが活動は継続していることがわかった。これは、ゴルフや野球、テニス等の屋外スポーツ愛好者の減少分と推測されることから、冬季の運動不足を解消することや、冬季でも同じ種目が継続できる施設などのスポーツ環境づくりを意識したスポーツ政策、まさにスポーツツーリズムのアウトバウンド的側面からも検討していく必要がある。

あり、多くの人がスポーツには何らかの形で興味・関心を持っていることが確認できた。

表3-1、表3-2において1%水準で有意な差がみられ、「する」「観る」という視点から、性別では、男性が女

表3-2 「する」「見る」スポーツの選好 年齢

年齢	選好					合計
	「する」・「観る」両方とも好き	どちらかといえば「する」のが好き	どちらかといえば「観る」のが好き	スポーツは好きではない	わからない	
20代	34 46.6%	14 19.2%	18 24.7%	6 8.2%	1 1.4%	73 100.0%
30代	39 29.8%	42 32.1%	36 27.5%	9 6.9%	5 3.8%	131 100.0%
40代	95 44.6%	32 15.0%	64 30.0%	14 6.6%	8 3.8%	213 100.0%
50代	93 37.8%	33 13.4%	107 43.5%	10 4.1%	3 1.2%	246 100.0%
60代	96 34.3%	61 21.8%	107 38.2%	10 3.6%	6 2.1%	280 100.0%
70代以上	67 34.7%	25 13.0%	88 45.6%	7 3.6%	6 3.1%	193 100.0%
合計	424 37.3%	207 18.2%	420 37.0%	56 4.9%	29 2.6%	1136 100.0%

P<0.01

性に比較して「する」・「観る」両方とも好きな傾向がみられ、年齢が高まるほど「観る」という選好行動に進んでいる傾向がみられた。

また、どちらかといえば「する」とどちらかといえば「観る」を比較すると、30代で「する」のが好きという人が多いが、それ以外の年齢では「観る」のが好きという人が多い傾向にあった。今後、

「観る」が「現地での観戦」なのか「テレビやインターネットでの視聴」なのか、また、「身内などのアマチュアスポーツの応援」なのか「プロスポーツの観戦」なのかという実態をつかむ必要がある。スポーツやプロスポーツによる地域活性化に向けた戦略を進めていく上で重要な視点である。

②スポーツをする上での重視点

表3-3、表3-4は、スポーツをする上で重要に思っていることについて7つの項目から2項目まで選択された結果である。表3-3、表3-4より、多くの人々がスポーツをする目的として「健康の維持・向上・回復」について重要視していることがわかる。特に女性の80.8%が重要視し、「ストレス発散」も37.4%と高い傾向にあった。また、「健康の維持・向上・回復」は年齢が上がるほど重要視しており、若い世代ほどスポーツをすることが

表3-3 スポーツをする上での重要にしていること 性別 2項目選択

性別	重要視点							合計
	健康の維持・向上・回復(病気の予防・抑制、ダイエット、けがのハビリなど)	目標の達成感や爽快感(体力・技術力の向上、勝敗など)	スポーツをきっかけとした仲間づくり	ストレスの発散	ファッション(服装・おしゃれ・美容が中心)	わからない	その他	
男性	373 73.7%	154 30.4%	77 15.2%	155 30.6%	3 .6%	29 5.7%	5 1.0%	506
女性	492 80.8%	123 20.2%	85 14.0%	229 37.4%	21 3.4%	23 3.8%	9 1.5%	609
合計	865 77.6%	277 24.8%	162 14.5%	383 34.3%	24 2.2%	52 4.7%	14 1.3%	1115 100.0%

「健康の維持・向上・回復」は年齢が上がるほど重要視しており、若い世代ほどスポーツをすることが「ストレス発散」の重要な手段と考えている。

「目標の達成感や爽快感」はスポーツや運動の本源的な性質であり、20%~30%の数値を示していることは、スポーツの目的論的な

表3-4 スポーツをする上での重要にしていること 年齢 2項目選択

年齢	重要視点							合計
	健康の維持・向上・回復(病気の予防・抑制、ダイエット、けがのハビリなど)	目標の達成感や爽快感(体力・技術力の向上、勝敗など)	スポーツをきっかけとした仲間づくり	ストレスの発散	ファッション(服装・おしゃれ・美容が中心)	わからない	その他	
20代	51 69.9%	24 32.9%	9 12.3%	32 43.8%	5 6.8%	2 2.7%	0 .0%	73
30代	92 70.2%	31 23.7%	16 12.2%	57 43.5%	3 2.3%	5 3.8%	4 3.1%	131
40代	157 74.8%	62 29.5%	26 12.4%	70 33.3%	5 2.4%	10 4.8%	5 2.4%	210
50代	198 80.8%	59 24.1%	31 12.7%	81 33.1%	3 1.2%	9 3.7%	3 1.2%	245
60代	219 79.9%	70 25.5%	44 16.1%	91 33.2%	4 1.5%	13 4.7%	1 .4%	274
70代以上	148 81.3%	31 17.0%	36 19.8%	52 28.8%	4 2.2%	13 7.1%	1 .5%	182
合計	865 77.6%	277 24.8%	162 14.5%	383 34.3%	24 2.2%	52 4.7%	14 1.3%	1115 100.0%

視点からは重要な傾向であり、このような意識が高いほど継続性が高いとされている。「健康の維持・向上・回復」や「ストレス発散」は手段論的な視点であり、目的を失うと継続しない傾向がみられる。さらに、「スポーツをきっかけとした仲間づくり」が低い

数値を示しているが、スポーツや運動の個人主義化という現代的な特徴を示しているものと考えられる。地域のコミュニティづくりにおいて大きな障害になる可能性があるので注意しておく必要がある。

4. スポーツ施設について

①新たな建設施設

表4-1, 表4-2, 表4-3は, 新たなスポーツ施設の要望について「特になし」「その他」を含めた9項目に対して複数回答された結果である。野球場, 体育館, プールが20%を超えていた。性別では男性が野球場に多く, 女性では「特になし」が50%近く, スポーツ施設への関心が低いことがわかった。年齢(世代)別では野球場が50代, 体育館が20代に多い傾向がみられ, 世代によってスポーツ施設に対する要望が異なっていた。

また, 表4-3より, 居住地別に20%以上をみると, 盛岡市では「野球場」と「体育館」の要望が高く, 八幡平市, 滝沢市, 岩手町, 紫波町, 矢巾町で「プール」の新設を要望する声が多かった。また, 矢巾町では「体育館」に高いニーズがあることがわかった。別な角度から雫石町や

葛巻町では, 表4-4の大型改修を含め, 「特になし」が多く, スポーツ施設に対して住民の要望が低く, ある程度充実していると推察される。

②大型改修の施設

表4-4, 表4-5, 表4-6は, 大型なスポーツ施設の改修の要望について「特になし」「その他」を含めた9項目に対して複数回答された結果である。表4-4では, 新設と同様に男性では野球場, 体育館に要望が高く, 女性の「特になし」が55%を超え, ここでもスポーツ施設への関心が薄いことが確かめられた。表4-5より, 60代以上を除いて野球場の要望が高く,

表4-1 新たなスポーツ施設の建設希望 性別 複数回答

性別	新たな建設施設									合計
	野球場	球技場 (サッカー・ラグビー場)	陸上競技場	体育館	武道館	プール	テニスコート	特になし	その他	
男性	125 28.3%	61 13.8%	74 16.8%	104 23.6%	24 5.4%	84 19.0%	35 7.9%	138 31.3%	31 7.0%	441
女性	83 13.9%	44 7.4%	47 7.9%	129 21.6%	26 4.4%	129 21.6%	51 8.5%	293 49.1%	28 4.7%	597
合計	208 20.0%	105 10.1%	121 11.7%	233 22.4%	50 4.8%	213 20.5%	86 8.3%	431 41.5%	59 5.7%	1038 100.0%

表4-2 新たなスポーツ施設の建設希望 年齢 複数回答

年齢	新たな建設施設									合計
	野球場	球技場 (サッカー・ラグビー場)	陸上競技場	体育館	武道館	プール	テニスコート	特になし	その他	
20代	9 13.0%	7 10.1%	3 4.3%	18 26.1%	4 5.8%	13 18.8%	5 7.2%	28 40.6%	9 13.0%	69
30代	25 20.3%	17 13.8%	12 9.8%	27 22.0%	6 4.9%	29 23.6%	10 8.1%	50 40.7%	6 4.9%	123
40代	46 23.7%	25 12.9%	22 11.3%	48 24.7%	10 5.2%	50 25.8%	19 9.8%	62 32.0%	12 6.2%	194
50代	57 25.2%	21 9.3%	34 15.0%	52 23.0%	13 5.8%	45 19.9%	21 9.3%	89 39.4%	11 4.9%	226
60代	41 16.0%	17 6.6%	29 11.3%	53 20.6%	13 5.1%	51 19.8%	20 7.8%	120 46.7%	13 5.1%	257
70代以上	30 17.8%	19 10.7%	21 12.4%	35 20.7%	4 2.4%	25 14.8%	11 6.5%	82 48.5%	8 4.7%	169
合計	208 20.0%	105 10.1%	121 11.7%	233 22.4%	50 4.8%	213 20.5%	86 8.3%	431 41.5%	59 5.7%	1038 100.0%

表4-3 新たなスポーツ施設の建設希望 居住地 複数回答

居住地	新たな建設施設									合計
	野球場	球技場 (サッカー・ラグビー場)	陸上競技場	体育館	武道館	プール	テニスコート	特になし	その他	
盛岡市	154 26.6%	69 11.9%	93 16.1%	150 25.9%	24 4.1%	103 17.8%	53 9.2%	207 35.8%	36 6.2%	579
八幡平市	7 10.9%	3 4.7%	3 4.7%	14 21.9%	3 4.7%	16 25.0%	7 10.9%	34 53.1%	3 4.7%	64
滝沢市	18 14.6%	15 12.2%	8 6.5%	24 19.5%	7 5.7%	37 30.1%	7 5.7%	52 42.3%	4 3.3%	123
雫石町	1 2.0%	0 .0%	1 2.0%	3 6.1%	3 6.1%	4 8.2%	0 .0%	35 71.4%	5 10.2%	49
岩手町	3 7.1%	1 2.4%	0 .0%	3 7.1%	1 7.1%	12 28.6%	3 7.1%	24 57.1%	2 4.8%	42
葛巻町	1 5.0%	0 .0%	1 5.0%	3 15.0%	1 5.0%	1 5.0%	2 10.0%	16 80.0%	0 .0%	20
紫波町	6 7.9%	4 5.3%	3 3.9%	11 14.5%	4 5.3%	23 30.3%	3 3.9%	37 48.7%	4 5.3%	76
矢巾町	18 21.2%	13 15.3%	12 14.1%	25 29.4%	5 5.9%	17 20.0%	11 12.9%	26 30.6%	5 5.9%	85
合計	208 20.0%	105 10.1%	121 11.7%	233 22.4%	50 4.8%	213 20.5%	86 8.3%	431 41.5%	59 5.7%	1038 100.0%

また40代の施設への改修の要望が多い傾向もみられた。この傾向についてどのような要因かわからないが今後の分析課題としたい。表4-6からは、盛岡市と紫波町で「野球場」、紫波町と矢巾町で「体育館」の大規模改修を望んでいることが伺える。八幡平市、滝沢市、雫石町、岩手町、葛巻町では「特になし」と回答した人が多く、スポーツ施設の改修要望が低かった。

この結果、スポーツ施設の新設や大規模改修において地域性が見られ、広域8市町の連携等の役割などを踏まえて検討していく必要があることが示唆された。

③施設利用上の重視点

表4-7、表4-8、表4-9は、スポーツ施設を利用する上で重要と考えられることを、「その他」「わからない」を含む7項目から2項目まで選択された結果である。全体としては「交通アクセスの良さ」が47.2%、「利用料金の安さ」が55.4%と上位を占め、「施設設備や器機の充実」が次に続いていた。そのほかの項目も数値的には低いが多様な側面から重視されていることが読み取れる。表4-7より、特徴として女性に「利用料金の安さ」が60.0%と男性に「施設設備や器機の充実」が34.8%と高い傾向がみられ

表4-4 大型スポーツ施設の改修要望 性別 複数回答

		大規模改修施設								合計	
		野球場	球技場 (サッカー、ラグビー場)	陸上競技場	体育館	武道館	プール	テニスコート	特になし		その他
性別	男性	136 28.3%	48 10.0%	75 15.6%	106 22.1%	10 2.1%	33 6.9%	18 3.8%	205 42.7%	12 2.5%	480
	女性	91 15.9%	20 3.5%	60 10.5%	91 15.9%	18 3.1%	41 7.1%	27 4.7%	318 55.4%	15 2.6%	574
合計		227 21.5%	68 6.5%	135 12.8%	197 18.7%	28 2.7%	74 7.0%	45 4.3%	523 49.6%	27 2.6%	1054 100.0%

表4-5 大型スポーツ施設の改修希望 年齢 複数回答

		大規模改修施設								合計	
		野球場	球技場 (サッカー、ラグビー場)	陸上競技場	体育館	武道館	プール	テニスコート	特になし		その他
年齢	20代	16 23.2%	4 5.8%	5 7.2%	10 14.5%	3 4.3%	8 11.6%	3 4.3%	35 50.7%	2 2.9%	69
	30代	29 23.4%	10 8.1%	7 5.6%	16 12.9%	4 3.2%	13 10.5%	5 4.0%	67 54.0%	2 1.6%	124
40代	54 27.1%	20 10.1%	25 12.6%	43 21.6%	4 2.0%	19 9.5%	14 7.0%	82 41.2%	5 2.5%	199	
	50代	55 23.2%	11 4.6%	37 15.6%	44 18.6%	4 1.7%	9 3.8%	10 4.2%	114 48.1%	9 3.8%	237
60代	46 18.3%	13 5.2%	41 16.3%	57 22.6%	9 3.6%	18 7.1%	8 3.2%	127 50.4%	4 1.6%	252	
	70代以上	27 15.6%	10 5.8%	20 11.6%	27 15.6%	4 2.3%	7 4.0%	5 2.9%	98 56.6%	5 2.9%	173
合計		227 21.5%	68 6.5%	135 12.8%	197 18.7%	28 2.7%	74 7.0%	45 4.3%	523 49.6%	27 2.6%	1054 100.0%

表4-6 大型スポーツ施設の改修希望 居住地 複数回答

		大規模改修施設								合計	
		野球場	球技場 (サッカー、ラグビー場)	陸上競技場	体育館	武道館	プール	テニスコート	特になし		その他
居住地	盛岡市	170 27.5%	53 8.6%	112 18.1%	116 18.8%	13 2.1%	38 6.1%	30 4.9%	274 44.3%	16 2.6%	618
	八幡平市	5 8.3%	3 5.0%	3 5.0%	7 11.7%	4 6.7%	6 10.0%	5 8.3%	37 61.7%	2 3.3%	60
	滝沢市	15 12.9%	10 8.6%	4 3.4%	18 15.5%	3 2.6%	6 5.2%	3 2.6%	73 62.9%	3 2.6%	116
	雫石町	5 10.6%	0 0.0%	1 2.1%	6 12.8%	1 2.1%	1 2.1%	1 2.1%	33 70.2%	2 4.3%	47
	岩手町	7 17.1%	0 0.0%	1 2.4%	1 2.4%	2 4.9%	5 12.2%	1 2.4%	27 65.9%	0 0.0%	41
	葛巻町	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 18.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	13 81.3%	0 0.0%	16
	紫波町	16 21.1%	0 0.0%	9 11.8%	21 27.6%	2 2.6%	4 5.3%	2 2.6%	47 47.4%	3 1.3%	76
	矢巾町	9 11.3%	2 2.5%	5 6.3%	25 31.3%	3 3.8%	3 17.5%	3 3.8%	14 37.5%	3 3.8%	80
	合計	227 21.5%	68 6.5%	135 12.8%	197 18.7%	28 2.7%	74 7.0%	45 4.3%	523 49.6%	27 2.6%	1054 100.0%

表4-7 施設の利用上の重視点 性別 2項目選択

		重視点							合計
		交通アクセスの良さ	利用料金の安さ	施設設備や器機の充実	予約の取れやすさ(混雑が少ない)	魅力的なスポーツ教室・イベントの開催	その他	わからない(特になし)	
性別	男性	215 42.0%	255 49.8%	178 34.8%	78 15.2%	52 10.2%	16 3.1%	77 15.0%	512
	女性	321 51.5%	374 60.0%	147 23.6%	71 11.4%	111 17.8%	18 2.9%	18 11.6%	623
合計		536 47.2%	629 55.4%	325 28.6%	149 13.1%	163 14.4%	34 3.0%	149 13.1%	1135 100.0%

表4-8 施設の利用上の重視点 年齢 2項目選択

		重視点							合計
		交通アクセスの良さ	利用料金の安さ	施設設備や器機の充実	予約の取れやすさ(混雑が少ない)	魅力的なスポーツ教室・イベントの開催	その他	わからない(特になし)	
年齢	20代	27 37.0%	50 68.5%	32 43.8%	17 15.1%	8 11.0%	2 2.7%	7 9.6%	73
	30代	65 49.6%	86 65.6%	47 35.9%	17 13.0%	19 14.5%	1 0.8%	7 5.3%	131
40代	88 41.3%	128 60.1%	71 33.3%	32 15.0%	35 16.4%	3 6.1%	14 6.6%	213	
	50代	122 49.4%	146 59.1%	67 27.1%	30 12.1%	40 16.2%	7 2.8%	8 8.1%	247
60代	137 49.1%	142 50.9%	69 24.7%	37 13.3%	39 14.0%	9 3.2%	46 16.5%	279	
	70代以上	97 50.5%	77 40.1%	39 20.3%	22 11.5%	22 11.5%	2 1.0%	55 28.6%	192
合計		536 47.2%	629 55.4%	325 28.6%	149 13.1%	163 14.4%	34 3.0%	149 13.1%	1135 100.0%

た。女性が料金についてかなり敏感な傾向があり、男性は施設の中身に興味があるということがわかった。

表4-8から、年齢では「利用料金の安さ」と「施設設備や機器の充実」において年齢が上がるにつれて低下の傾向がみられた。一概には言えないが、若い世代ほど収入の面（生活状況）で「利用料金」について敏感であり、また技術革新（時代の背景）の中で高水準のレベルを求めているという特徴があると考えられる。

表4-9では、居住地域の中で盛岡市が「利用料金の安さ」と「交通のアクセスの良さ」の差が少なく、他地域より「交通のアクセスの良さ」に対して強い要望を持っていることが伺えた。また、滝沢市、雫石町、葛巻町、矢巾町ではこの差が高く、「利用料金の安さ」に重きを置いている傾向がみられる。この結果から盛岡市の住民はスポーツ施設の配置等に交通アクセス上から何らかの不满を持っている傾向が予測され、さらに利用料金については地域に関係なく多くの住民が重きを置いていることがわかった。

スポーツ施設に対する住民の意識や利用者目線での利用しやすさなどについて今後より検討していく必要がある。

5. スポーツイベントについて

①希望郷いわて国体・いわて大会への参加状況

表5-1と表5-2は、2016年に開催されたいわて国体・いわて大会に地域住民の皆さんがどのようなかわり方をしたか複数回答で回答された結果である。全体として「特に参加しなかった」の割合が69.8%であり、それ以外の人々の複数回答となる。参加形態としては、「会場で応援した」が14.6%、「学校・職場・町内会等として関わった」が8.2%と続いており、約3人に1人が国体に関わったことがわかる。しかし、この3割の住民が何らかのかかわりをしてきたことがわかったが、それが多いのか少ないのかという判断が難しいところではあるが、妥当な数値に収まったと考えられる。

表4-9 施設の利用上の重視点 居住地 2項目選択

居住地	重視点							合計
	交通アクセスの良さ	利用料金の安さ	施設設備や機器の充実	予約の取れやすさ（混雑が少ない）	魅力的なスポーツ教室・イベントの開催	その他	わからない（特になし）	
盛岡市	344 52.3%	372 56.5%	188 28.6%	85 12.9%	84 12.8%	22 3.3%	69 10.5%	658
八幡平市	31 46.3%	25 37.3%	17 25.4%	4 6.0%	15 22.4%	1 1.5%	16 23.9%	67
滝沢市	55 44.0%	76 60.8%	30 24.0%	22 17.6%	13 10.4%	5 4.0%	17 13.6%	125
雫石町	18 35.3%	31 60.8%	18 35.3%	4 7.8%	12 23.5%	0 .0%	8 15.7%	51
岩手町	17 38.6%	21 47.7%	15 34.1%	7 15.9%	11 25.0%	0 .0%	5 11.4%	44
葛巻町	4 18.2%	11 50.0%	6 27.3%	1 4.5%	3 13.6%	0 .0%	8 36.4%	22
紫波町	30 37.0%	40 49.4%	22 27.2%	11 13.6%	15 18.5%	2 2.5%	17 21.0%	81
矢巾町	37 42.5%	53 60.9%	29 33.3%	15 17.2%	10 11.5%	4 4.6%	9 10.3%	87
合計	536 47.2%	629 55.4%	325 28.6%	149 13.1%	163 14.4%	34 3.0%	149 13.1%	1135 100.0%

表5-1 いわて国体・いわて大会への参加 性別 複数回答

性別	参加の形態						合計	
	選手として参加した	役員として参加した	会場で応援した	ボランティアとして参加した	学校・職場・町内会等として関わった	仕事（宿泊、交通、衛生など）として関わった		特に参加しなかった
男性	3 6%	17 3.4%	71 14.0%	23 4.5%	47 9.3%	35 6.9%	338 66.7%	507
女性	2 3%	7 1.1%	93 15.1%	22 3.6%	45 7.3%	26 4.2%	447 72.4%	617
合計	5 0.4%	24 2.1%	164 14.6%	45 4.0%	92 8.2%	61 5.4%	785 69.8%	1124 100.0%

表5-2 いわて国体・いわて大会への参加 年齢 複数回答

年齢	参加の形態						合計	
	選手として参加した	役員として参加した	会場で応援した	ボランティアとして参加した	学校・職場・町内会等として関わった	仕事（宿泊、交通、衛生など）として関わった		特に参加しなかった
20代	1 1.4%	3 4.1%	3 4.1%	1 1.4%	5 6.8%	6 8.2%	54 74.0%	73
30代	1 .8%	2 1.5%	19 14.5%	4 3.1%	7 5.3%	14 10.7%	93 71.0%	131
40代	0 .0%	5 2.4%	36 17.1%	7 3.3%	28 13.3%	14 6.6%	136 64.5%	211
50代	1 .4%	2 .8%	29 11.9%	11 4.5%	25 10.3%	14 5.8%	169 69.5%	243
60代	2 .7%	6 2.2%	51 18.3%	14 5.0%	17 6.1%	11 4.0%	190 68.3%	278
70代以上	0 .0%	6 3.2%	26 13.8%	8 4.3%	10 5.3%	2 1.1%	143 76.1%	188
合計	5 0.4%	24 2.1%	164 14.6%	45 4.0%	92 8.2%	61 5.4%	785 69.8%	1124 100.0%

次に、表5-1から性別に差は見られなかったが、表5-2より低年齢（世代）ほど参加しておらず、また予測はつくが70代以上も少なかった。今後のスポーツイベントの誘致に対してこの結果は、性別や年齢の背景（ライフステージやライフスタイル）を分析しながらイベントに対する住民のかかわり方について質的・量的側面から検討すべきである。

②ボランティア活動への参加

表5-3、表5-4は、今後のスポーツイベントに対するボランティアとしての参加希望の有無の結果である。全体では、スポーツボランティアの参加希望について「ぜひ参加したい」と思う住民は性別や年齢に関係なく少なかった。「ぜひ参加したい」と「どちらかといえば参加したい」を合わせれば、37.2%、「参加したくない」が27.8%、「わからない」が35.0%であった。「わからない」と回答した人たちがどのような背景があるかわからないが、その時々やイベント内容によって数値は変わってくるものと考えられる。

表5-4より、性別では1%水準で有意な差がみられた。20代、30代と70代以上に「参加したくない」が多い傾向はみられたが、どのような理由があるか検討する必要がある。

いずれにおいても、ボランティアへの意識啓発が今後スポーツイベントの成功に大きな影響を与えるので検討すべき課題である。まだまだ、スポーツボランティアという概念や仕組み、その意義が住民には伝わっていないと思われ、「参加したくない」という層以外に対して何らかの政策的な働きかけが重要となる。特に、スポーツイベントの誘致、そして成功におけるキーパーソンがボランティアであり、その量と質が地域の人的資源のバロメーターにもなると考えられる。

③プロスポーツへの期待

表5-5、表5-6、表5-7では、地元のプロスポーツチームに対する期待について「わからない」「その他」を含む9項目から2項目以内で選択された結果である。各表で全体の30%以上について注目すると、「チームの活躍によるスポーツ意欲の

表5-3 ボランティアの参加 性別

		参加希望			合計	
		ぜひ参加したい	どちらかといえば参加したい	参加したくない		わからない
性別	男性	37 7.3%	158 31.0%	146 28.6%	169 33.1%	510 100.0%
	女性	41 6.7%	183 29.7%	167 27.1%	225 36.5%	616 100.0%
合計		78 6.9%	341 30.3%	313 27.8%	394 35.0%	1126 100.0%

表5-4 ボランティアの参加 年齢

	年齢	参加希望			合計	
		ぜひ参加したい	どちらかといえば参加したい	参加したくない		わからない
年齢	20代	8 11.0%	18 24.7%	29 39.7%	18 24.7%	73 100.0%
	30代	7 5.4%	30 23.1%	45 34.6%	48 36.9%	130 100.0%
	40代	10 4.7%	77 36.3%	54 25.5%	71 33.5%	212 100.0%
	50代	23 9.4%	81 33.1%	60 24.5%	81 33.1%	245 100.0%
	60代	20 7.3%	94 34.2%	59 21.5%	102 37.1%	275 100.0%
	70代以上	10 5.2%	41 21.5%	66 34.6%	74 38.7%	191 100.0%
	合計		78 6.9%	341 30.3%	313 27.8%	394 35.0%

P<0.01

表5-5 プロスポーツへの期待 性別 2項目選択

	性別	プロスポーツへの期待									合計
		チームの活躍によるスポーツ意欲の向上	地域の競技レベルの向上	試合の観戦を目的とした観光客の増加	選手参加による地域イベントの盛上り	市町(または岩手県)の知名度の向上	地域経済の活性化(雇用・消費など)	青少年への健全育成・実技指導	わからない(特になし)	その他	
性別	男性	158 30.7%	164 31.9%	90 17.5%	51 9.9%	90 17.5%	130 25.3%	148 28.8%	66 12.8%	12 2.3%	514
	女性	214 34.6%	197 31.8%	87 14.1%	66 10.7%	103 16.6%	134 21.6%	197 31.8%	75 12.1%	8 1.3%	619
合計		372 32.8%	361 31.9%	177 15.6%	117 10.3%	193 17.0%	264 23.3%	345 30.5%	141 12.4%	20 1.8%	1133 100.0%

チームの活躍によるスポーツ意欲の向上

欲の向上」「地域の競技レベルの向上」「青少年への健全育成・実技指導」が上がり、その次に20%台として「地域経済の活性化（雇用・消費など）」がみられる特徴があった。そのほかには、年齢別で60代と70代に「青少年への健全育成・実技指導」が高く、20代で「地域経済の活性化（雇用・消費など）」が高い傾向が見られた（表5-6）。高齢者はプロスポーツに対して「教育的な価値」、若い世代は経済、特に雇用や消費という若者の抱えている課題やライフスタイルというものに関わる要因が垣間見られた。まさに、年齢（世代）の違いによる期待の方向が異なることがわかった。表5-7より、盛岡市以外で「青少年の健全育成・実技指導」に30%を超える期待がみられた。これは、プロスポーツをはじめとしたレベルの高いものに触れるチャンスが少ないこと、スポーツに対して教育的価値を高く持っていることが要因になっていると考えられる。

④2020東京オリンピック・パラリンピック

表5-8、表5-9、表5-10では、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに対する期待について「わからない」「その他」を含めた7項目から2項目以内で選択された結果である。全体として「スポーツに対する関心の高まり」と「地元からのオリンピック出場選手の輩出」が高い期待となっており、「国際平和・国際交流に対する意識醸成」が続いていた。特に、表5-11から「スポーツに対する関心の高まり」において年齢が上がるにつれて期待度が上がっており、年齢別に違いがあるという特徴がみられた。また、40代で「地元からのオリンピック出場選手の輩出」が52.4%と高く、この世代が選手輩出世代の親でもあり共感できるのかもしれない。また、表5-10の居住地別では、地域によって期待度の高さに違いがみられ、何らかの地域特性（過去のオリンピック選手の輩出や2020年への輩出可能性など）が影響しているように推察された。こ

表5-6 プロスポーツへの期待 年齢 2項目選択

年齢	プロスポーツへの期待								合計	
	チームの活躍によるスポーツ意欲の向上	地域の競技レベルの向上	試合を観戦を目的とした観光客の増加	選手参加による地域イベントの盛り上げ	市町（または岩手県）の知名度の向上	地域経済の活性化（雇用・消費など）	青少年への健全育成・実技指導	わからない（特になし）		その他
20代	17 23.3%	18 24.7%	10 13.7%	14 19.2%	16 21.9%	22 30.1%	15 20.5%	12 16.4%	1 1.4%	73
30代	41 31.3%	37 28.2%	29 22.1%	15 11.5%	17 13.0%	35 26.7%	37 28.2%	16 12.2%	3 2.3%	131
40代	62 29.2%	65 30.7%	39 18.4%	24 11.3%	32 15.1%	49 23.1%	61 28.8%	22 10.4%	3 3.3%	212
50代	94 38.2%	93 37.8%	40 16.3%	15 6.1%	38 15.4%	56 22.8%	66 26.8%	27 11.0%	6 2.4%	246
60代	96 34.5%	97 34.9%	35 12.6%	21 7.6%	56 20.1%	70 25.2%	99 35.6%	29 10.4%	3 1.1%	278
70代以上	62 32.1%	51 26.4%	24 12.4%	28 14.5%	34 17.6%	32 16.6%	67 34.7%	35 18.1%	0 0%	193
合計	372 32.8%	361 31.9%	177 15.6%	117 10.3%	193 17.0%	264 23.3%	345 30.5%	141 12.4%	20 1.8%	1133 100.0%

表5-7 プロスポーツへの期待 居住地 2項目選択

居住地	プロスポーツへの期待								合計	
	チームの活躍によるスポーツ意欲の向上	地域の競技レベルの向上	試合を観戦を目的とした観光客の増加	選手参加による地域イベントの盛り上げ	市町（または岩手県）の知名度の向上	地域経済の活性化（雇用・消費など）	青少年への健全育成・実技指導	わからない（特になし）		その他
盛岡市	219 33.3%	225 34.2%	110 16.7%	61 9.3%	118 18.0%	150 22.8%	185 28.2%	76 11.6%	14 2.1%	657
八幡平市	17 25.8%	16 24.2%	13 19.7%	10 15.2%	9 13.6%	17 25.8%	23 34.8%	10 15.2%	0 0%	66
滝沢市	37 29.4%	41 32.5%	13 10.3%	19 15.1%	24 19.0%	32 25.4%	40 31.7%	16 12.7%	0 0%	126
栗石町	16 31.4%	12 23.5%	9 15.7%	6 11.8%	7 13.7%	14 27.5%	17 33.3%	9 17.6%	1 2.0%	51
岩手町	16 36.4%	11 25.0%	9 20.5%	2 4.5%	6 13.6%	10 22.7%	15 34.1%	6 13.6%	1 2.3%	44
葛巻町	9 42.9%	4 19.0%	3 14.3%	3 14.3%	3 14.3%	7 33.3%	10 47.6%	0 0%	0 0%	21
紫波町	25 30.9%	22 27.2%	12 14.8%	6 7.4%	16 19.8%	18 22.2%	28 34.6%	11 13.6%	2 2.5%	81
矢巾町	33 37.9%	30 34.5%	9 10.3%	9 11.5%	10 11.5%	16 18.4%	27 31.0%	15 14.9%	2 2.3%	87
合計	372 32.8%	361 31.9%	177 15.6%	117 10.3%	193 17.0%	264 23.3%	345 30.5%	141 12.4%	20 1.8%	1133 100.0%

表5-8 東京オリンピック・パラリンピックへの期待 性別 2項目選択

性別	期待						合計	
	スポーツに対する関心の高まり	地元からのオリンピック出場選手の輩出	オリンピックと地元住民との交流（事前キャンプなど）	訪れる外国人観光客の増加	国際平和・国際交流に対する意識醸成	わからない（特になし）		その他
男性	225 43.9%	219 42.8%	88 17.2%	92 18.0%	158 30.9%	70 13.7%	8 1.6%	512
女性	258 41.6%	277 44.7%	97 15.6%	86 13.9%	224 36.1%	81 13.1%	8 1.3%	620
合計	483 42.7%	496 43.8%	185 16.3%	178 15.7%	382 33.7%	151 13.3%	16 1.4%	1132 100.0%

のような傾向を押さえることによって新たなスポーツコミッションの戦略的な切り口に反映できるヒントが与えられている。

次に、表5-11、表5-12は、東京オリンピック・パラリンピックにどのような関わっていきたいかという質問に対する結果である。63.4%が「テレビ等で観戦（応援）」であり、「会場に行き観戦（応援）したい」と回答した人が24.9%であった。性別では違いは見られなかったが、表5-12では、1%水準で有意な差がみられ、年齢が低いほど「会場に行き観戦（応援）したい」と答えており、逆の傾向が「テレビ等で観戦（応援）したい」に表れていた。

このようなスポーツ観戦行動においても世代の違い、まさにスポーツ観やライフステージの違いによるライフスタイルが強く影響しているものと考えられる。

表5-9 東京オリンピック・パラリンピックへの期待 年齢 2項目選択

		期待						合計		
		スポーツに対する関心の高まり	地元からのオリンピック出場選手の輩出	オリンピックと地域住民との交流（事前キャンプなど）	訪れる外国人観光客の増加	国際平和・国際交流に対する意識の醸成	わからない（特にない）		その他	
年齢	20代	24 32.9%	27 37.0%	13 17.8%	20 27.4%	22 30.1%	13 17.8%	1 1.4%	73	
	30代	44 33.6%	50 38.2%	23 17.6%	20 15.3%	37 28.2%	23 17.6%	6 4.6%		
	40代	74 34.9%	111 52.4%	35 16.5%	30 14.2%	66 31.1%	28 13.2%	2 .9%		212
	50代	107 43.5%	107 43.5%	44 17.9%	36 14.6%	88 35.8%	28 11.4%	2 .8%		246
	60代	131 47.3%	113 40.8%	44 15.9%	40 14.4%	105 37.9%	37 13.4%	5 1.8%		277
	70代以上	103 53.4%	88 45.6%	26 13.5%	32 16.6%	64 33.2%	22 11.4%	0 .0%		193
	合計	483 42.7%	496 43.8%	185 16.3%	178 15.7%	382 33.7%	151 13.3%	16 1.4%		1132 100.0%

表5-10 東京オリンピック・パラリンピックへの期待 居住地 2項目選択

		期待						合計		
		スポーツに対する関心の高まり	地元からのオリンピック出場選手の輩出	オリンピックと地域住民との交流（事前キャンプなど）	訪れる外国人観光客の増加	国際平和・国際交流に対する意識の醸成	わからない（特にない）		その他	
居住地	盛岡市	280 42.6%	289 44.0%	115 17.5%	112 17.0%	217 33.0%	77 11.7%	11 1.7%	657	
	八幡平市	25 37.9%	35 53.0%	10 15.2%	11 16.7%	22 33.3%	12 18.2%	0 .0%		
	滝沢市	51 40.8%	61 48.8%	17 13.6%	18 14.4%	37 29.6%	18 14.4%	1 .8%		
	雫石町	23 45.1%	17 33.3%	9 17.6%	12 23.5%	19 37.3%	8 15.7%	2 3.9%		
	岩手町	18 40.9%	22 50.0%	7 15.9%	5 11.4%	14 31.8%	7 15.9%	0 .0%		
	葛巻町	7 33.3%	6 28.6%	6 28.6%	1 4.8%	9 42.9%	3 14.3%	0 .0%		
	紫波町	38 46.9%	32 39.5%	9 11.1%	6 7.4%	32 39.5%	12 14.8%	1 1.2%		
	矢巾町	41 47.1%	34 39.1%	12 13.8%	13 14.9%	32 36.8%	14 16.1%	1 1.1%		
	合計	483 42.7%	496 43.8%	185 16.3%	178 15.7%	382 33.7%	151 13.3%	16 1.4%		1132 100.0%

表5-11 東京オリンピック・パラリンピックの関わり 性別

		関わり方				合計	
		会場に行き観戦（応援）したい	大会ボランティア等の形で大会に関わりたい	テレビ等で観戦（応援）したい	わからない		その他
性別	男性	135 26.3%	17 3.3%	314 61.1%	36 7.0%	12 2.3%	514 100.0%
	女性	148 23.8%	14 2.2%	407 65.3%	45 7.2%	9 1.4%	623 100.0%
合計		283 24.9%	31 2.7%	721 63.4%	81 7.1%	21 1.8%	1137 100.0%

表5-12 東京オリンピック・パラリンピックの関わり 年齢

		関わり方				合計	
		会場に行き観戦（応援）したい	大会ボランティア等の形で大会に関わりたい	テレビ等で観戦（応援）したい	わからない		その他
年齢	20代	25 34.2%	3 4.1%	38 52.1%	6 8.2%	1 1.4%	73 100.0%
	30代	32 24.4%	6 4.6%	77 58.8%	13 9.9%	3 2.3%	131 100.0%
	40代	73 34.4%	6 2.8%	112 52.8%	15 7.1%	6 2.8%	212 100.0%
	50代	64 25.9%	10 4.0%	152 61.5%	17 6.9%	4 1.6%	247 100.0%
	60代	63 22.5%	4 1.4%	187 66.8%	19 6.8%	7 2.5%	280 100.0%
	70代以上	26 13.4%	2 1.0%	155 79.9%	11 5.7%	0 .0%	194 100.0%
	合計	283 24.9%	31 2.7%	721 63.4%	81 7.1%	21 1.8%	1137 100.0%

P<0.01

6. スポーツを通じた地域の活性化への取組み

①地域活性化を進めるために必要なこと

表6-1、表6-2は、スポーツを通して地域活性化を図るために必要と考えることを「わからない」「その他」を含む10項目から2項目以内を選択した結果である。全体として「8市町が連携した効率的なスポーツ施設の整備（スポーツの場づくり）」「スポーツに親しむきっかけづくり（講座・教室の充実）」が30%を超えて選択された。20%台として「地域の競技力の向上や有望選手への支援」「プロスポーツなど高レベルな試合（プロ野球など）の開催」と続いている。この結果から、住民は活動拠点となる「スポーツ施設」とその中で展開される「スポーツプログラム」の充実を望んでいる傾向がみられる。このような住民の「する」スポーツに対する需要を捉えるとともに、競技力向上、プロスポーツ・スポーツイベントの誘致等の取組を地域の活力につなげていくなど、スポーツが持つ多様な価値を捉えた政策が必要である。

表6-1 スポーツを通じた地域活性化に必要なこと 性別 2項目選択

		必要と思うこと									合計	
		8市町が連携した効率的なスポーツ施設の整備（スポーツの場づくり）	地域の競技力の向上や有望選手への支援	スポーツに親しむきっかけづくり（講座・教室の充実）	スポーツイベントの開催（フルマラソン大会など）や全国大会の誘致	スポーツ合宿の誘致（高校・大学、全日本など）	ワールドカップなど大規模な国際スポーツ大会・イベントの誘致	プロスポーツなど高レベルな試合（プロ野球など）の開催	盛岡広域を本拠地とするプロスポーツチームの強化	わからない（特になし）		その他
性別	男性	220 42.0%	121 23.1%	130 24.8%	80 15.3%	67 12.8%	56 10.7%	114 21.8%	63 12.0%	56 10.7%	15 2.9%	524
	女性	216 34.1%	157 24.8%	231 36.5%	124 19.6%	75 11.8%	38 6.0%	116 18.3%	56 8.8%	66 10.4%	9 1.4%	
合計		436 37.7%	278 24.0%	361 31.2%	204 17.6%	142 12.3%	94 8.1%	230 19.9%	119 10.3%	122 10.5%	24 2.1%	1157 100.0%

表6-2 スポーツを通じた地域活性化に必要なこと 年齢 2項目選択

		必要と思うこと									合計		
		8市町が連携した効率的なスポーツ施設の整備（スポーツの場づくり）	地域の競技力の向上や有望選手への支援	スポーツに親しむきっかけづくり（講座・教室の充実）	スポーツイベントの開催（フルマラソン大会など）や全国大会の誘致	スポーツ合宿の誘致（高校・大学、全日本など）	ワールドカップなど大規模な国際スポーツ大会・イベントの誘致	プロスポーツなど高レベルな試合（プロ野球など）の開催	盛岡広域を本拠地とするプロスポーツチームの強化	わからない（特になし）		その他	
年齢	20代	29 39.2%	16 21.6%	20 27.0%	14 18.9%	7 9.5%	7 9.5%	21 28.4%	2 2.7%	10 13.5%	2 2.7%	74	
	30代	49 36.8%	23 17.3%	50 37.6%	24 18.0%	7 5.3%	10 7.5%	29 21.8%	19 14.3%	12 9.0%	2 1.5%		133
	40代	90 41.3%	41 18.8%	67 30.7%	32 14.7%	28 12.8%	29 13.3%	51 23.4%	23 10.6%	16 7.3%	5 2.3%		
	50代	88 35.5%	60 24.2%	82 33.1%	52 21.0%	34 13.7%	16 6.5%	53 21.4%	26 10.5%	23 9.3%	4 1.6%		248
	60代	110 38.9%	82 29.0%	90 31.8%	55 19.4%	35 12.4%	19 6.7%	43 15.2%	24 8.5%	31 11.0%	6 2.1%		
	70代以上	70 34.8%	56 27.9%	52 25.9%	27 13.4%	31 15.4%	13 6.5%	33 16.4%	25 12.4%	30 14.9%	5 2.5%		201
	合計	436 37.7%	278 24.0%	361 31.2%	204 17.6%	142 12.3%	94 8.1%	230 19.9%	119 10.3%	122 10.5%	24 2.1%		

まとめ

調査票の最後に自由記述を求め、多くの要望や意見が記述されていた。盛岡広域スポーツコミッションに向けられた直接の要望や意見は少なかったが、その中で、国際大会やレベルの高い試合、トップチームの合宿等の誘致に期待をかけていた。さらに地域からのオリンピック選手や候補選手などに対する支援、子供たちが描ける夢などにつながる施策の展開を望んでいた。また、8市町の広域性を生かした取り組みに対する期待などが多く述べられていた。

しかし、スポーツコミッションに対する直接的には結びつかない多くの意見等が記述され、まさにスポーツ政策全般に対する内容であった。その多くはスポーツ環境に対する内容であり、特にスポーツ施設に対する要望や意見であった。施設の老築化や地域性から冬季に利用できる施設の充実、今後の新しい施設建設における交通の便を考慮した立地、施設の集中化、あるいは分散化（日常圏における立地）などの多様な意見が挙げられていた。

また、地域住民に対するプログラムサービスの充実、多様な年齢やライフスタイルに対応した教室や研修会等の開催も多くあった。

本研究の目的は、盛岡広域8市町の地域で設立されたスポーツコミッションを事例対象として今後のスポーツコミッションの進むべき方向性と役割について検討することにあった。基礎データとして「盛岡広域連携スポーツツーリズム推進に係るアンケート調査」を利用し、その中で得られた結果から、次の視点で分析した。

スポーツ庁がスポーツコミッションを定義した「地方自治体、スポーツ団体、民間企業（観光産業、スポーツ産業）等が一体となり、スポーツツーリズム、イベント開催、大会や合宿の誘致などによる地域活性化に取り組む組織」の中から、本研究ではスポーツコミッションが「地域活性化に取り組む組織」を主要な方向性と役割と位置づけ、またスポーツ庁が求めている4つの要件の中で、要件4：特定の大会・イベントの開催及びその付帯事業に特化せず、スポーツによる地域活性化に向けた幅広い活動を行っていることに注目して検討してきた。

調査結果から、地域住民のスポーツに対する意識が下記のように捉えられた。

- ・地域住民の健康を意識したスポーツや運動の実施状況は、69.6%の住民が程度の差はあるが活動をしていたと認識していた。
- ・地域住民全体の中で、定期的（週1回以上）な健康を意識したスポーツや運動の実施者は、54.8%であり、夏季（4月から10月）と冬季（11月から3月）を比較してみても、冬季間の活動が多少定期的な活動は減少するものの年間を通じて活動している状況がみえた。冬季間のスポーツや運動を実施するスポーツ環境がないことが課題となっていた。
- ・実施していない住民では、実施しなかった理由として53.7%の人が「時間がない」と答えていた。これは従来からの調査と同じ上位の理由であり、時間がないという認識をどのように払しょくしていくか重要な課題であった。
- ・しかし、地域住民の92.5%がスポーツを「する」ことや「観る」ことを選好しており、スポーツそのものが日常生活の中に重要な位置を占めていることが確認できた。

よって、大多数の地域住民がスポーツを多様な形で選好している状況の中で、スポーツツーリズムだけの視点ではなく、スポーツ全般として、「地域活性化」という目標課題に対して戦略的にスポーツコミッションとしての重要な役割がみえてきた。要するに、スポーツコミッションがスポーツツーリズムとして展開する上でも、まず地域スポーツ環境としてのスポーツ施設やプログラムにおいて地域住民を中心に据え、性別、年齢、地域特性（地域のニーズ）に合わせた視野をベースに政策展開すべきである。

最後に、スポーツツーリズムにしる、地域のスポーツ成熟度が重要な要件になり、スポーツを中心に据えて、地域活性化に繋がる政策展開をすべきであり、その中心にスポーツコミッションを据えていくことを提案したい。現在の地域におけるスポーツ体制として、スポーツ行政の政策（スポーツ推進計画等）、体育協会、種目別協会等、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、地域のスポーツサークル等が多様な形態で展開されているが、トータルに支援をしていくシステムがない。体育協会がその役割を担うべきものと考えられるが、実際のところ競技スポーツを中心に展開されてきた歴史があり、生涯スポーツや、スポーツツーリズムな

ど多様な体制を担うことは難しい状況である。また、行政はスポーツ政策の発信を重要な役割として担っているが、現状は少子高齢化や人口減少により「新しい公共」という仕組に期待をかけざる負えない状況にある。

これらの地域の現状を踏まえると、スポーツツーリズムという側面から登場してきた「スポーツコミッション」に、地域スポーツ体制の中心的役割を担っていける可能性を求めたい。

引用・参考文献

- 山下玲, 原田宗彦, 2015, 「スポーツツーリズムのこれから」, 日本スポーツツーリズム推進機構編, 『スポーツツーリズムハンドブック』, p.21, 学芸出版
- スポーツ・ツーリズム推進連絡会議, 2011, 『観光庁のスポーツツーリズム推進基本方針』, 6月, 観光庁
- 盛岡市, 2017, 『第一次盛岡広域スポーツツーリズム推進計画』, 10月
- 細田隆・瀬田史彦・小泉秀樹, 2016, 「地方自治体におけるスポーツ政策の新たな展開に関する研究」, 都市計画論文集, 51-3
- 高橋一夫, 2017, 『DMO観光地経営のイノベーション』, 学芸出版社
- 文部科学省, 2013, 『体力・スポーツに関する世論調査』, 2013年1月調査

(2018年4月20日受理)